

① はまなか

議会だより

NO 131

令和2年1月15日発行



12月定例会

予 算 一 覧	算 議 一 覧	ふるさと納税の状況と増収への取組みは	3P~4P
予 算 一 覧	算 議 一 覧	6人の議員が町政を問う	6P~11P
予 算 一 覧	算 議 一 覧	学遜志 (渡辺 さくら さん)	12P

表紙の写真
茶内保育所のお餅つき会
が12月17日に行われました。
子どもたちも笑顔でおもち
つき。出来上がったおもち
は、きなこもちや砂糖醤油
でおいしくいただきました。
気忙しい年末に、笑顔が
あふれるあったかいイベン
トでした。

年頭にあたって



浜中町議会議長

波岡玄智

輝かしい令和2年の年頭にあたり、謹んで新春のお慶びを申し上げます。

令和の御代となって初めて開催された第200回臨時国会が12月9日閉幕しました。「桜を見る会」などマスコミを賑わしましたが、私たちにとって最優先課題である日米貿易協定が承認され、1月1日の発行がほぼ確実となりました。これにより米国産牛肉や豚肉、乳製品などの関税率は環太平洋連携協定(TPP11)の同水準まで下がることとなり、特に米国産と競合しやすい乳製品や牛肉などの品目は、道内農業への影響が懸念されます。

政府に対して農業者が持続可能な生産活動ができるよう、生産基盤強化などより一層の国内対策を求めているかなければなりません。

本町の酪農業は、比較的天候に恵まれ全体的に見て年間に必要な粗飼料は十分確保され、また、生乳生産量は4月以降、各月とも前年実績を下回る生産が続いておりましたが、徐々に回復傾向にあり、11月末現在で前年同期を若干下回るものの、全道や釧路管内においても順調に推移しており、今後の生産に期待するところであり、今後の漁業においては、太宗漁業の昆布漁

が日数、生産量とともに例年並みを確保した一方、イワシ漁は前年実績を7%

保した一方、イワシ漁は前年実績を7%、秋サケ漁は18%、タコ漁は12%減、サンマ漁は漁場が遠く、群れも薄かったことから記録的不漁となり、自然の恵みを生業とする私たちにあって大変厳しい1年となりました。

昨年は全国各地で台風、地震、集中豪雨、記録的な暴風などの自然災害が相次ぎました。地球温暖化が要因とされています。このままいけば最悪の場合2100年には気温は4℃上昇し、海面上昇の影響から水没する地域が出てしまい、地球は危ないというのが世界の大部分の政策関係者や研究者たちの共通の認識であるとされています。

四方を海に囲まれている島国の日本にとって、気候変動は国土を失う死活問題で現実味を帯び、解決に向け人類の決断が迫られていると思います。

懸案の、防災機能を備えた役場新庁舎は今年12月の完成を目途に着実に進行しております。

昨年は議員の改選期で元議員、新議員を新たに迎えました。議員の本分を自覚し、地域創生事業など諸課題解決に向け、思いを一にして一層の審議の深化に努め、皆さまの負託にお答えしていくことをお誓い申し上げ年頭のご挨拶といたします。

浜中町議会

議長 波岡玄智

副議長 中山真一

議員 川村義春

同 田甫哲朗

同 秋森新二

同 小松克也

同 加藤弘二

同 前田光治

同 成田良雄

同 三上浅雄

同 落合俊雄

同 渡部貴士

一般会計
補正予算

ふるさと納税増収7000万円を含む

1億4960万円を追加

予算
総額

92億6673万円に

12月

定例会

4日・5日

補正予算 審議から

12月定例会が4日・5日の2日間の会期で開かれ、一般会計および各会計の補正と条例改正など20議案が上程され、いずれも原案のとおり可決しました。また、一般質問では、6人の議員が登壇しました。



新たに加えた 人気のシフォンケーキ

ふるさと納税の状況と 増収への取り組みは

問 ふるさと納税の状況と返礼品目やサイトを拡充するなどの取り組みは。

答 11月現在までの寄付件数は8千件で、昨年度の実績6千件を既に上回っており、税額も当初予算1億円に加え7千万円の増額を見込んでいる。そのことから、返礼品費2100万円、委託料1164万円、返礼品送料910万円などの経費約4400万円も増額補正となる。

返礼品を扱っているのは現在13企業で、人気の品目はアイスクリームやチーズセット・ウニ・コンブなどのほか、新たに加えた地元の牛乳を使ったシフォンケーキが多く求められている。納税窓口となるサイトは【ふるさとチョイス】や【楽天】のほか【ふるなび】と【auWowma】を加え、閲覧の機会を増やしたことから増収が図られたものと考えている。

今後返礼品目を増やすなど、増収に向け取り組んでいく。

空き家対策の状況は



危険空き家

を見送るとのことで、残る3件は現在検討中となっている。

特措法に基づき町が「特定空き家」と認定した物件は6件であるが、いずれも所有者を特定できているの

で適正管理および補助制度を活用した除却の実施を促していく。

その手順として、指導助言↓勧告↓命令の順で、最終的には解体費用を強制徴収できる行政代執行となる。

総合計画策定のスケジュールは

問 総合計画策定の補正は印刷製本費249万円の計上であるが、その内容と今後のスケジュールは。

作成する。

今後のスケジュールは、原案をホームページに掲載し、町民への説明会を実施する。パブリックコメントを経て、議会へ説明する。

答 第6期浜中町まちづくり総合計画の冊子3千冊を印刷し全戸に配布する。データ用としてCD50枚分を

その後、修正を加え1月の臨時会で提案したい。

商工活性化補助の内容は

問 町地域経済活性化推進奨励補助は、地場産品を活用した商品開発やパッケージなどをつくる補助制度であるが、このたびの200万円の内容は。

答 乳製品製造業者1件で、新たにパッケージを製作する。

アイスクリームのラベル2種類1万5千枚ずつと容器2種類1万6千個ずつ、

その他の主な歳出（一般会計）

歳出の内訳	金額
特定防衛施設周辺整備調整交付金基金積立金（保育所運営分）	2800万円
「ゆうゆう」光熱水費（風車解体に伴う電気料不足分）	673万円
ウニ養殖業新規着業者設備導入事業補助（3件分）	530万円

チーズのパッケージ1万5千枚。総事業費433万円の2分の1補助で上限20万円となっている。

問 不良空き家等解体工事1323万円の内容は。

また、町独自で実施している除却補助制度（上限50万円）の申請状況は。

答 工事請負費の補正は、霧多布・新川にある危険家屋の解体2棟に要するもので、国の補助制度を活用して実施する。

当該家屋は老朽化が著しく近隣住民に危険を及ぼす

恐れがあることから、空き家対策特別措置法（特措法）の規定により略式代執行とする。

また、町の不良空き家等除却補助の状況は、補助制度への申し込みが16件ありうち12件が該当となった。12件中5件から申請があり250万円の交付が確定している。

残りの7件中4件は、資金面などから今年度の申請

新任議員の紹介

落合 俊雄(67)



所属 社会文教常任委員会
広報公聴常任委員会

渡部 貴士(46)



所属 総務経済常任委員会
広報公聴常任委員会

副町長の選任に同意

副町長の選任について無記名投票の結果、全員賛成で齊藤清隆氏を最適任と認め、選任することに同意しました。



齊藤 清隆氏(霧多布)

湿原センターの指定管理者を可決

湿原センターは、特定NPO法人霧多布湿原ナショナルトラストを指定管理者として3期15年運営してきた。令和2年3月で指定期間が満了するため公募の結果、同団体からのみ申請があり、選定委員会で審査し決定した。

地方自治法の規定により特定NPO法人霧多布湿原ナショナルトラストの指定について、原案どおり可決した。

なお、指定期間は令和2年4月1日から令和7年3月31日までの5年間。

平成30年度 の各会計

決算を認定

9月定例会で設置された決算審査特別委員会(中山真一委員長)は、10月8日に質問事項を抽出し、11月6日・7日に各担当課に説明を求め質疑を行った。審査の結果、各会計決算を認定すべきものと決した。なお、審査の過程で出された留意点を口頭で報告した。

委員長の口頭報告

防災対策は「安心・安全のまちづくり」を進めるうえで非常に重要な位置を占める。

浜中町防災の万全を期し、災害に強い町づくりを進めることを目的とした「浜中町地域防災計画」の見直しについて早期作成することに努力していただきたい。

また、防潮堤高上工事に ついては、平成29年度から水取場建設海岸防潮堤高上

工事に着手、平成30年度から霧多布港湾海岸防潮堤高上工事に着手しているが、琵琶瀬く柳町間の約10kmの防潮堤高上工事は整備計画が示されていないことから早急な着工に向け、管轄する北海道に対し要望活動を引き続き行っていた。

今回の決算審査全体を通じて感じとれたのは、財政基盤の根幹である税収や使用料、手数料および貸付金などの自主財源を確保するにあたり、収納努力により税および税外金の未収金が減少傾向にある。

収納関係者の努力を評価すると共に、今後も収納対策委員会の組織機能を十分発揮し担当者より一層の努力を期待する。

工事請負契約の締結と変更を可決

□防災倉庫建設工事

(契約先) 九重種市建設(有)
(契約金額) 5654万円
(工期) 令和2年10月16日

□湯沸高台避難道路建設工事 工事請負契約の変更

(変更額) 6億8418万円を6億8517万円に変更

□湯沸高台拠点避難地造成 工事請負契約の変更

(変更額) 3億4816万円を3億5466万円に変更

□湯沸高台防災広場造成工事 申請負契約の変更

(変更額) 2億3365万円を2億3636万円に変更

※変更はいずれも賃金および物価の変動に伴うもので、工期の変更はない。

一般質問

田甫 哲朗 議員



問 子育て世代との対話の実現を

答 新年度から進めて行きたい

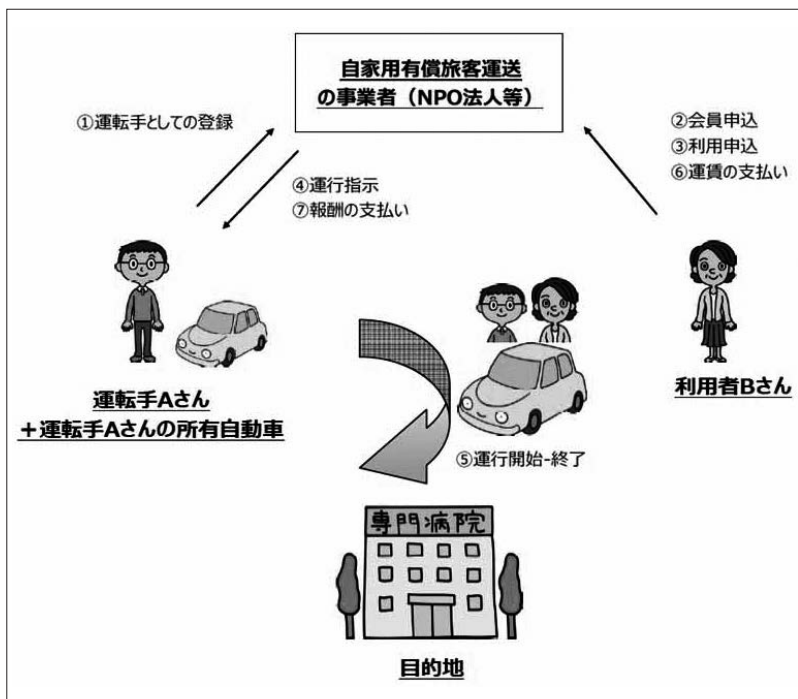
田甫 町長は3期目の新たな取り組みとして、今後のまちづくりに向け、現役世代との対話の重要性を掲げられている。是非とも実現すべきと思うが対象とする団体や開催方法など具体的な内容は、
また、周知するためにはネーミングも大事では。
町長 町はこれまで、子育て支援として子ども医療費

の無償化や結婚・出産祝金など。新たな産業振興策として後継者就業交付金制度を実施してきた。そうした施策に対する意見や感想を直接聞く機会が少なかった。そうした機会を増やすと共に次の浜中町を担っていく現役世代の人たちの考えを聞き「まちづくり」に活かしていきたい。
青年部・父母会・子育てサークルなど対象はさまざまと思うが、開催時期や方法などは形式に捉われず気軽に対話できる環境を整えたい。
また、「まちづくり」の新たな取り組みでもありインパクトのあるネーミングを考え、新年度からの実施を考えている。

問 高齢者にやさしい交通サービスを
実証運行を基にしたバス路線計画で
答 自治会連合会とも相談し検討したい。
町長 「まちづくり懇談会」での住民参加率は、極めて低いのが現状である。この施策に連動させ開催方法を見直す考えは。

田甫 運転免許証を返納する人も出てきた一方、通院や買い物など日常生活への不安から返納できずにいる人もいる。「公共交通空白地の移動手段の利便性を図る考えは。
町長 現在町では、一定の利用要件はあるが高齢者を対象とした外出支援サービスを実施している。

まずは、このたび行った実証運行を基にしたバス路線計画を実施し、その検証結果を踏まえ何らかの対策が必要であれば検討したい。
※「公共交通空白地有償運送」とは、住民の移動手段対策として自家用車による有償運送を一定要件に基づき合法化する国の規制緩和制度。



有償運送イメージ図

一般質問

秋森 新二 議員



昆布漁船への 津波避難対策は

屋外拡声器の増設や 改良などを検討する

問

答

秋森 北海道は、今後予想される最大地震規模はマグニチュード9・1、津波高は浜中町琵琶瀬で国内最大級の34・6mとした。令和元年度の実績では435隻、940人が昆布漁に従事している。昆布漁操業中に津波警報が発令された場合は、いち早く情報を伝達し、迅速な避難を促す必要があるが、

昆布漁場には携帯電話の不通地域もあることから、全船への連絡を確実にこなせる屋外拡声器を設置すべきでは。

また、津波警報発令時の水門・陸閘の閉鎖方法やタイミング、閉鎖に間に合わなかった漁船・トラックへの対応は。

町長 設置場所、費用の関係もあり、直ちに設置することは難しい。48基の既存屋外拡声器を最大限活用しつつ、新規施設の設置も検



霧多布岬に設置の屋外拡声器

討していきたい。

水門・陸閘の閉鎖は警報発令後、担当職員が津波防災ステーションに到着次第、遠隔操作で行っている。

震源地が近い場合は一刻も早い閉鎖が必須だが、津波到達まで時間がある場合は水門・陸閘に設置したカメラで状況を確認し、閉鎖を調整することは可能である。

問 役場職員の副業解禁を

答 調査・検証が必要

秋森 神戸市、奈良県生駒市、宮崎県新富町などが職員の副業解禁を導入済みであり、NPO活動や子どものスポーツ指導などに活用されている。道内でも「鹿部町職員の副業解禁、漁業支援など想定」と報道されるなど、全国的に公務員の副業解禁が広まりつつある。過去に昆布生産量日本一を誇った浜中町であるが、就業者の高齢化、人手不足などで生産量は減少し、廃業に至るケースも増加しつつある。

「協働のまちづくり」の一環として、役場職員が産業を支援できる「副業解禁」に向けた考えは。

町長 浜中町職員服務規程では、任命権者の許可なく営利企業に従事することを禁じている。

NPO活動、地域産業への支援策として「副業解禁」は有効であると認識しているが、職務に影響を与えない「副業」のありかたを十分調査・検証したい。

一般質問

川村 義春 議員



問 自然と調和する美しい町に

答 町民が誇れる 景観維持に努める

川村 観光地として誇れる「美しい町・心地よい町・楽しい町」であるためには施設整備や景観管理が重要である。アゼチの岬に通じるハマナスロードの歩道・植栽は雑草に覆われ、転落防止の擬木柵も一部損傷している。現状把握は。

1年後の庁舎完成を期に視察者や美しい景観を求め観光客の増が予想される。

ハマナスロードの景観整備に向けた予算措置は。

町長 アゼチの岬に向かって700m区間内にある施設の現状は把握している。今後の施設管理は、植栽柵内に塩害に強い植物（多年草）を植え、ハマナスは根を張れる歩道法面へ移植するなど景観整備の予算は道路維持費で対応したい。

川村 町の環境基本計画には浜中町らしい景観の維持創出を掲げている。最近は遊休地化した海産干場などに太陽光発電施設が乱立し景観を損ねている。残すべき景観保全のエリアを定め構造物などの設置を規制できる景観条例や景観計画の策定が急がれるが、今後の策定スケジュールは。

町長 景観条例と計画策定の概略は、令和2年度に庁舎内に検討委員会および策定審議会を設置。町民や団体との意見交換を行い景観計画での規制に関する合意形成を図り、令和3年度中に道と景観行政団体への移行協議を終え、令和4年4月から施行したい。



アゼチの岬に通じるハマナスロード(町道湯沸1号道路。延長1.8km)

問 浜中歯科診療所
医師の確保は

答 現状維持で
診療日の増を検討

川村 霧多布の歯科診療所は、週2回(火・木)であり、以前のような診療を求め声があるが現状維持か。または単独で運営する医師確保をめざすのか。

町長 これまでの経緯もあり、現状維持で診療を継続してもらおう考えである。

なお、診療日の増は診療体制が整った時点で検討。

問 役場新庁舎建設の
進捗状況は

答 建築・土木工事ともに
予定工期内で推移

川村 役場新庁舎の発注済み建築工事と土木工事の主たる工事の進捗率は。

町長 継続費による主たる工事の進捗率は、庁舎建築主体工事総事業費約15億円のうち約36%(2階床までのコンクリート打設完了)。避難道路建設は、総事業費約7億円のうち約28%(切土部の掘削・縦断排水完了)である。

一般質問

加藤 弘二 議員



問

霧多布保育所の高台移転は

答

地域・父母の要望に応えたい

加藤 まちづくりを考えるとき「未来に生きる子どもたちのことを第一に考えるべき」との住民の声がある。霧多布保育所の建物の現在の状況は。

町長 昭和51年竣工、42年9カ月経過している。耐用年数は50年。状況は窓枠の錆、排水管のつまりなどは時々あるが、子どもたちの安全を考えて早めの修繕を

実施している。

加藤 私も、所長に案内され、事前に建物の状況を見て、頑丈な建物の印象がある。

何度かの地震の揺れで、



移転が望まれる霧多布保育所

数カ所ひびが見られたが、総じて建物そのものは大丈夫であると確認できた。保育所高台移転に関するアンケート結果は。

町長 平成30年11月に霧多

布保育所通所区域の全ての家庭1037世帯にアンケートを実施している。回収率は25・7%（小学就学前の世帯の回収率は65・7%）結果は、避難し易い場所が高台近くが55件の20・6%。高台移転が123件で46%、浜中町に一任が60件で22・5%。

加藤 今回の質問に至ったのは、浜中市街で働いている人から、街づくりの基本は「未来の子どもたちに焦点を当てて考えることだ」との意見からだがどう思うか。

町長 子どもの命を守る。そして、アンケートの意向も含めるとすれば、高台移転ということになる。

加藤 私は、町長から「高台移転」の答弁を聞きほっとしている。

高台移転の場合は、国の「緊急防災減災事業債（緊防債）」の対象であるが、この制度の見直しは。

町長 緊防債は、時限立法で来年度までである。ただ、実際に国に要請するのは再来年度からで、緊防債延長の要望をする必要がある。

一般質問

落合 俊雄 議員



問 2期の総括と今後は

答 これまでの継続と
若人との対話を

落合 町長はこの2期8年をどのように総括されているか。

町長 長谷川前町長が病氣療養中の3月に発生した東日本大震災時、町長職務代理者として震災復興に当たった頃から既に始まったように感じている。9月に勇退された後を引き継ぎ、災害に強いまちづくりの必要性を強く感じると同時に



新庁舎の立体模型

強い使命感もあった。その間、役場新庁舎の建設に当たっては多くの町民、議員の皆様と議論を重ね、皆様のご理解のもと、工事が進んでいる。霧多布

港湾の防潮堤嵩上げ工事とともに来年度末には完成する。また、人口減少が続く中にあるにも基幹産業である農業、漁業の振興、さらに

は子育て世代には高校生までの医療費や保育料の無償化などさまざまな施策に取り組んできたが、まだまだ道半ばだと思っている。

落合 庁舎問題を契機に町民の間に溝ができたという認識は。

町長 庁舎に関しては高台移転という視点で一貫して説明をしてきた。多くの時間を費やしたが最終的には理解をいただいたと考えている。

落合 2期8年を終えてまだ道半ばとして向かう3期目の具体的な内容は。

町長 産業振興、災害に強いまちづくりの継続が首長としての責任だと考えている。加えてこれまで若い世代との対話ができていなかったとの思いもある。その世代が町に何を求め、どのように働きたいのか。将来を担う各産業に携わる青年、若いお母さんたちと対話を進めながらこれからのまちづくりを考え、町政執行に当たっていききたい。

一般質問

渡部 貴士 議員



問 国定公園化へ向けた課題は

答 観光振興に向けた施策を推進したい

渡部 厚岸道立自然公園国定公園化昇格へ向けて、さまざまな効果や問題が考えられる。

【メリット】

- ・自然、景観の保護がなされ、乱開発が防止される。
- ・利用者増加に伴う経済波及効果があり、雇用や施設整備が促進される。

【デメリット】

- ・オーバートゥリズム（観

光公害）問題。

- ・規制に伴う経済的損失や許認可手続きが複雑化など。

我が浜中町は、豊かではあるが小さな自然の中に人々の生活があり、観光客数を増やすよりも持続可能なツーリズムを目指す方が得策かと考える。

希少な動植物や第1次産業従事者とのめ事を防ぐため、脱マストゥリズム（団体旅行）や入域制限の考えは。

町長 観光客増加によるゴミ問題、植物の踏み荒らしなどが懸念されるが、現時点での弊害はなく、入域規制の考えはない。

渡部 観光客が増加するに当たり、道の駅かそれに代わる施設の準備や構想は。

町長 地場産業振興のための道の駅建設に向けて庁舎内検討委員会を設置したが、総合的に時期尚早との判断で現在は凍結状態にある。

既存施設と連携を図りながら、観光客の増加に対応していきたい。

渡部 養殖ウニブランド化

に伴い、町内で提供できる飲食店はあるか。

町長 1週間位前に予約すると対応できる。国の「地理的表示（GI）保護制度」への登録を目指すことを主目的とした「浜中水産物振興協議会」を設立したので、町内外に発信し、今後は提供先の飲食店と相談し検討したい。

渡部 新庁舎完成を見据え町の中心部となる霧多布市街地の荒廃家屋や店舗への対応は。

町長 浜中町不良空家等除却補助制度で、空き家の解体を支援し、利活用については浜中町空家等対策検討会議で議論している。空き家バンク制度も導入を検討している。



待たれる国定公園化

学途志

霧多布高等学校
1年A組



渡辺さくら

「浜中学」を学んで

私達1学年は、「浜中町を知る」をテーマに、浜中学に取り組んでいます。その中でも、浜中町の魅力を再発見するために絶景スポットを巡り、写真を撮ってPRをしたり、歴史を知るために総合文化センター内の郷土資料館で調べたりする体験をしました。

また、出前講座では、漁業と農業について、漁業協同組合や役場職員の方々から詳しく教えていただきました。私の家族は漁業に携わっていますが、初めて知

った事やさらに詳しく知った事があったので、とても良い勉強になりました。私は農業についてあまり知らなかったのですが、出前講座で教えていただいた事のほとんどが新鮮でした。

こういった私達の知らない職業について詳しく知ったり、学んだりすることが出来るのは、浜中学の強い特徴だと思います。普段の生活や学習だけでは学ぶことができないので、浜中学があることで知識をさらに増やし、活用することができます。

私が中学生の頃は、霧多布高校に入学したら、浜中学を一番学習したいと思っていました。私達が住んでいる町でも、知らない事はまだまだあると思い、さらに知識を増やしたかったからです。町を知り、「ここが私の育った浜中町です。」と自慢できるくらい知識を増やせば、町の良い所がでてきます。

私達は、浜中学を通じて地元の大切さや良さを改めて実感することができました。

た。そして、もっと詳しく知りたい、どうしたらさらに良い町にすることが出来るのだろうかと思いました。それを2年生、3年生の時に私達ができることを考えて調べて、浜中町を広めていきたいです。

まだまだ知らないことも沢山あると思いますが、浜中学で学べることはしっかりと身に付け、私のできる最大限のことを今後に活かしていけたら良いな、と考えています。

● 揮毫 書道部2年A組 川村 龍輝さん

● 読み方 がくそんし

● 意味 志を謙虚にするのが学問である。



町のトピックス

感謝を込めて

12月7日撮影

散布小中学校で昨年に引き続き「地域大感謝祭」が行われました。地域住民や保護者に日ごろの感謝の気持ちを込めて料理を振る舞いました。



この欄に掲載するまちの季節の写真をお寄せください。 次回の発行は令和2年4月15日です。

町のトピックス(話題)を 募集します!

ご応募はこちらへ 浜中町議会事務局 E-mail: gikai@town.hamanaka.lg.jp TEL: 62-2265